登録室リレー随筆

秋田県総合保健センター　戸堀 文雄

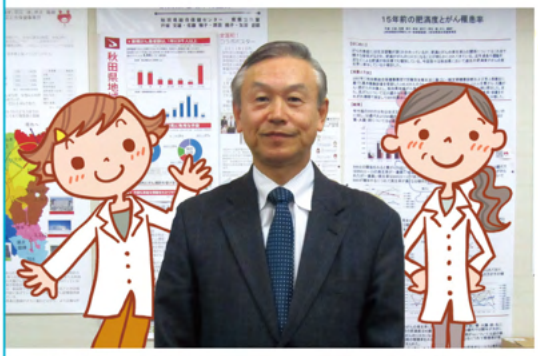
# 秋田県の短いがん登録の歴史と登録室の紹介

秋田県のがん登録は、秋田県及び秋田県医師会の働き掛けにより1986年に子宮がん登録が開始されたが、これは10年後に一旦休止になり、その後1996年に胃がん、2003年に大腸がんの個別臓器の登録のみ行っていた。秋田県は1997年以来がん死亡全国一位の状態が続いている中2006年「日本のがん医療を問う」という番組を契機に秋田県内でがん診療についての議論が盛んになった。そのような中、秋田県医師会の佐藤家隆常任理事の主導のもと、地域のがんの実態把握のための最も基礎的なデータとなるものであるとして全がん登録が開始されることになった。

秋田県にとって幸いだったのは秋田県がん登録委員会の初代委員長が加藤哲郎秋田県総合保健センター長だったことと、7県で未設置であったがん診療連携拠点病院が秋田県でも設置されたことに伴う院内がん登録が同時に始まりタイアップしながら進めることができたことにある。特に加藤委員長はがん登録事業を社会に還元するためには可及的早急に集計結果をまとめて報告することが重要であると説き、前年の登録資料を3月末に報告することを目標に掲げた。これにより当初から体制が整い協力医療機関に郵送することはもとより、医師会雑誌や県のホームページなどに早めに公表して周知を図ることができた。

秋田県は全国がん登録を開始した32番目の県であり後発であったが、2013年に秋田県で地域がん登録学術集会を開催した。協議会と秋田県医師会の全面的なバックアップを受けることができて学術集会はもとより情報交換会も盛大に行うことができた。この学術集会ではそのホームページを職員が自作し、ホームページでの申し込みの仕組みや秋田県のお役立ち情報などを載せたり、「かにくまくん」というマスコットキャラクターを作成したり、学術集会の準備状況を定期的に更新するなどして参加者を増やす工夫を行った。学術集会は実質2人の職員だけで準備・実行できたことを考えると良くできたと感心する。

秋田県地域がん登録は県からの委託を受け、秋田県総合保健センター内にある疾病登録室で行われているが、秋田県がん登録室と公式に名乗っていないのは個別臓器がん登録が前身であることの名残りである。登録室には室長を務める私の他に最大4人が在籍していた時期があるがいつのまにか元の2人体制になり現在に至っている。登録システムは当初はアクセスを元に独自開発を行って運用していたが、地域がん登録標準データベースシステムが導入されて使用することになった。しかしながら標準データベースシステムの使いにくさを何とかしたいと思っていた職員は全国がん登録が始まるにあたりシステム開発がなされるとの話を聞きつけ、国立がんセンターの松田先生、柴田先生に希望し、移籍し開発に参加していた。したがって現在の全国がん登録システムには秋田県の血も少しは入っているのではないかと考えている。



戸堀先生と仲間たち

日本がん登録協議会のホームページに全国のがん登録室情報のサイトがあるが、秋田県を開くと以前勤務していた職員の写真が載っている。以前から協議会より職員の写真更新もお願いされているようであるが「秋田という夢をこわしたくない」との職員からの強い要望でそのままになっている。今回も登録室の写真を要望されたが2人からは丁重かつ厳かにお断りされた。Newsletterの「モモコさんと紫本」コーナーが2013年からあるがその登場人物の2人の職員の名前はどういうわけか当登録室の2人と同じであり、行動なども似ているので職員の2人についてはこのコーナーから想像をしてほしい。